

骨粗鬆症 WEBセミナー

日時

2026年 7月16日(木) 19:00～20:00

追っかけ再生あり ※21時までに視聴開始した方に限り、お好きな個所からご覧いただけます。

骨粗鬆症とビタミンD₃の話題

演者



熊本大学大学院 生命科学研究部
総合医薬科学部門 感覚・運動医学分野
整形外科科学講座 教授

宮本 健史 先生

主催
東和薬品株式会社

骨粗鬆症とビタミンD₃の話題

宮本 健史 先生

熊本大学大学院 生命科学研究部 総合医薬科学部門
感覚・運動医学分野 整形外科学講座 教授

骨粗鬆症は骨密度の低下などにより、骨の脆弱性が増大した結果、骨折のリスクが増大した状態と定義される。骨粗鬆症や脆弱性骨折患者では、ビタミンDレベルが低下していることが古くから指摘されており、今日ではビタミンDステータスを評価するマーカーとして血清25(OH)Dの検査も、生涯に1回ではあるが保険診療で可能になった。しかし、ビタミンDと骨粗鬆症や脆弱性骨折との関連については、未だ不明なことも多い。

我々は大学病院の500名を超える医療従事者における血清25(OH)Dの評価を行い、約75%の者が不足あるいは欠乏に該当し、年齢が若いほど、その傾向が強いことを明らかにした。また、我々が大学病院ならびに関連病院、協力施設と行なった大腿骨近位部骨折の多施設研究においても、大腿骨近位部骨折患者では血清25(OH)Dレベルが極端に低く、大腿骨近位部骨折発生に血清25(OH)Dレベルが低いことが最も強く関連することを明らかにした。このことは、ビタミンD製剤を骨粗鬆症患者に投与することは、単にカルシウムの生体への腸管からの吸収増加効果にとどまらず、ビタミンD不足・欠乏への補充という意味合いもあることを意味する。また、我々の基礎的な解析では、活性型ビタミンD製剤の1つであるエルデカルシトールは閉経後に活性化する破骨細胞の活性を抑制する効果があることを明らかにした。つまりエルデカルシトールはロモソズマブやデノソマブ投与時の補助薬的に投与されることも多いが、エルデカルシトールには積極的に破骨細胞の骨吸収活性を抑制する効果もある。本講では、これら古くて新しいビタミンDの世界について考察したい。

骨粗鬆症WEBセミナー 視聴登録

下記視聴予約URLより事前お申込みの上、ご視聴ください。

<https://webinar.builders/seminars/form/uTZ9Rr2OGVwcUynj7FMopLgq85tQiADa>



視聴登録いただいた先生方へ弊社MRが訪問させていただくことがあります。

ご提供いただきました個人情報は、ご視聴いただいた先生の確認のほか、今後のセミナー・イベント、弊社製品に関するご案内のために使用します。

個人情報は、東和薬品と業務委託先以外の第三者に開示・提供することはありません。

個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理いたします。

お問合せ先

東和薬品株式会社 営業本部 営業戦略統括部 営業企画部 営業推進課
eigyousuishin@towayakuhin.co.jp